



## エコ・ファーストの約束を継続することで 地域での存在価値を発揮します。

ユニー株式会社 代表取締役社長

佐古則男

ユニーが環境に関する業界のトップランナーとして2008年に環境大臣と交わした「エコ・ファーストの約束」は、お客様とともに取り組むことで約束項目を次々と達成することができました。達成感を励みに、約束の更新を重ねて今年で8年目を迎えます。大事なのは、「やり続ける」ということ。その思いを胸に歩むユニーの環境・社会貢献活動の今を、佐古則男代表取締役社長と百瀬則子執行役員グループ環境社会貢献部長による対談で紹介します。

(インタビュー：2015年7月6日)



### お客様とともに行う環境貢献活動

**百瀬** 「エコ・ファースト」を掲げて、8年が経ちました。ユニーの環境・社会貢献活動の継続した取り組みに対し「アピタやピアゴがこの地域にあって良かった」というお客様の声や自治体の期待に、うれしく思います。特に「地域のお客様と一緒に環境・社会貢献をやりましょう」ということで進んできたことが大きかったですね。

**佐古** 普段の暮らしの中で特別に意識しないで行う環境・社会貢献活動に、その効果が表れています。例えばリサイクルボックス。身近なところでお客様が参加され、今や行動を促す存在になっています。わざわざ家庭からきれいにしたペットボトルや牛乳パックなどを持って来てくださる。捨て場所ではなく、私達がそれをリサイクルし再生商品を販売するという一連の流れを、お客様との共通認識としているからでしょう。つまりお客様は、自分達の行為がちゃんと活かされていることがわかる。今後の課題は、ガラスビンなど、回収品目を全店舗で平準化していくことに努めていく必要があります。

**百瀬** 2007年にたった1店舗からスタートしたレジ袋の無料配布の中止は、2014年2月からは全店で行っています。これも他社に先駆けた取り組みで、当初は苦情もありましたが、今は90%近くの方が「レジ袋はいりません」と言ってくれます。

**佐古** お客様にご協力いただきたいところは、はっきりとお願いすることです。例えばトレーのリサイクルは汚いまや分別をきちんとしていなければ、コストがかかりなかなか進まない。リサイクルボックスの活動を通じて、レジ袋の無料配布をやめることは環境貢献であると受け止めていただいたから、成果が早く表れたのでしょう。

**百瀬** ユニーではもう一つ、お客様とともに取り組む環境・社会貢献活動として、「ドネーション企画」を進めています。こちらも3年目を迎えました。そのシステムは、協賛企業の対象商品を購入いただくとお買い上げ1点につき、ユニーと協力メーカーとで出し合い、寄付金にするというもの。お客様からは好評ですし、メーカーさんの協力体制も大きいです。

**佐古** お買い物为社会貢献になるので

募金箱への寄付という取り組みも大切ですが、もう少し気軽にできればというお客様の思いに応えるものです。アピタやピアゴでの買い物誰かの喜ぶことにつながる。買い物にそういう意義が含まれると、買い物はより楽しいものになる。こういったやり方なら長く支援が続けられます。ユニーの環境・社会貢献活動の最大のポイントは、全社を挙げてということに加えてお客様と一緒にやることなのです。



### 子どもを通して環境への意識づけ

**百瀬** 効果を上げるには社会や環境に貢献していることを認識し評価してもらうことが大事で、「伝える」努力が非常に重要ですね。

**佐古** ええ。そこで取り組んでいる一つがエコ博をはじめ、子どもを対象とした環境学習です。食べ残しがなぜいけないのかなど、子どもの時から環境について意識することを植え付けていく。もう一つは、子どもを通じて親も環境貢献について見つめ直す機会とする。親子をターゲットに共通の認識を家庭に持ち込み、親子の絆を深

